

田中芳男関係資料の寄贈について

概要

近代日本において殖産興業や農林水産業を推進し、「博物館の父」とも称された飯田出身の田中芳男（1838-1916）ゆかりの品々全 853 件 1506 点に及ぶ資料群が、今年 6 月に飯田市に寄贈された。

寄贈者は東京都在住の某家で、田中芳男のゆかりの品々を田中の故郷である飯田市に寄贈したいとの申し出を受け、田中家に関する資料を収集してきた当館にて受け入れを行った。

田中芳男は、18 歳で名古屋の本草学者伊藤圭介のもとで学んだのち、江戸幕府の洋学研究機関である蕃書調所に入り、慶応 3 年（1867）のパリ万博に参加した。明治維新後は文部省および農商務省の事務官となり、日本最初の化学研究所である舎密局や大学南校物産局の立ち上げに参加し、国内外の博覧会開催に携わった。この時期における田中の仕事の蓄積が、のちに東京上野公園の博物館群（国立科学博物館、上野動物園、東京国立博物館）の設立に発展する。政府官僚を退いてからは貴族院議員となり、農林水産関係の主要団体の会長職を歴任、大正 4 年（1915）には男爵を授けられ翌 5 年に 77 歳で没した。

飯田市美術博物館における田中芳男関連の所蔵品は、今回の寄贈によって 2000 点近い大コレクションに成長した。同館で平成 11 年（1999）に開催した特別展「日本の博物館の父 田中芳男」展では、自前の所蔵品が皆無に近い状態であったが、このたびの寄贈により、質量ともに「日本の博物館の父」の生誕地に相応しい充実したコレクションとなった。田中芳男本人のことはもちろん、日本の博物館の成立史、近代日本における殖産興業や近代学問の受容過程を知る上でも避けて通れない重要な資料群と言っても過言ではない。

1、寄贈者 某家（東京都在住 本人の希望により氏名及び連絡先は非公表）

2、寄贈品の内容

	種類	登録件数	点数
①	書籍（雑誌・新聞含む）・写本・目録類	214件	343点
②	スケッチ・原画類	28件	379点
③	書画・刷り物・拓本など	57件	80点
④	原稿・校正・日記類	68件	71点
⑤	辞令類	21件	39点
⑥	写真類	22件	84点
⑦	書簡類	384件	441点
⑧	器物・標本・記念品等	59件	69点

以上 853 件 1506 点（総額 18,235 千円相当）

3、今後の活用案

①展示

- ・自然・文化展示室での展示（数ヶ月に一度展示替え）
- ・美術博物館での企画展示など（数年に 1 本のペース）
- ・他館への貸出

※前提として、資料調査および、資料の表装や裏打ちなど公開に耐えうる形に改装する準備期間が必要

②研究資料として

- ・全国の研究者に開かれたコレクション

③目録の公開

担当課

美術博物館（担当：織田）

TEL0265-22-8118/FAX0265-22-5252

E-mail ic2614@city.iida.nagano.jp